

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	一般臨床医学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1.健康と疾病の概念を説明できる。 2.外科の代表的な疾患について、病態、症状、治療法を説明できる。 3.泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻科の代表的な疾患について、病態、症状、治療法を説明できる。			評価方法			
授業概要	健康の概念(栄養含む)を理解し、現代社会に求められる健康の維持・増強に関する健康管理および疾病予防について学習する。また、救急医学の概要を理解するとともに、医療の現場で遭遇しうる一次救命処置についても学習する。			期末試験 60% 小テスト40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための一般臨床医学	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション ～ 一般臨床医学で学ぶこと、事例障害 ～						
第2週	外科総論① 機械的損傷、非機械的損傷、感染性疾患について						
第3週	外科総論② 末梢血行障害、腫瘍、臓器移植について						
第4週	リハビリテーション栄養 栄養状態、栄養管理、リハビリテーションに求められる栄養指導について						
第5週	脳神経外科概論 解剖、脳の主な病態生理、補助検査法、主な疾患						
第6週	小テスト①(第2回～5回までの内容)						
第7週	皮膚疾患 解剖・生理、病状・病態生理、湿疹・皮膚炎、蕁麻疹などについて						
第8週	泌尿器疾患 解剖・生理、尿路感染症、腎不全、腫瘍、生殖器の疾患について						
第9週	産婦人科疾患 一般的な婦人科の問題、無月経と異常性器出血、女性器系の腫瘍について						
第10週	小テスト②(第7回～9回)						
第11週	眼科疾患 解剖・生理、眼の症状と徴候、感染症、白内障、緑内障、斜視と色覚異常について						
第12週	耳鼻科疾患 耳・鼻の構造、口腔・咽頭・喉頭の解剖、それぞれの疾患について						
第13週	救急救命医学 一次救命の手順、アルゴリズム、AEDの使用方法など						
第14週	小テスト③(第11回～13回)						
第15週	本試験対策、まとめ						
授業外学習指示等	教科書・配布資料を使って、予習・復習を行いましょう。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	神経内科学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	神経筋疾患の多様な症状と病理を理解し、理学療法展開の基礎を構築する。			評価方法			
授業概要	神経筋疾患の多様な症状と病理の解説			試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学	使用器材	液晶プロジェクター 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第5章 意識障害、脳死、植物状態 第6章 頭痛、めまい、失神						
第2週	第8章 錐体外路徴候、不随意運動 第9章 運動失調						
第3週	第10章 感覚障害 第11章 高次脳機能障害:総論・失語症						
第4週	第12章 高次脳機能障害:失認 第13章 高次脳機能障害:失行						
第5週	第13章 高次脳機能障害:失行 第14章 高次脳機能障害:記憶障害						
第6週	第15章 高次脳機能障害:注意障害 第16章 高次脳機能障害:遂行(実行)機能障害						
第7週	第17章 構音障害 第18章 嚥下障害 第19章 頭蓋内圧亢進						
第8週	試験						
第9週	第20章 脳血管障害						
第10週	第21章 認知症						
第11週	第22章 脳腫瘍						
第12週	第25章 変性疾患(錐体外路系を除く)、脱髄疾患						
第13週	第26章 錐体外路の変性疾患 第27章 末梢神経障害						
第14週	第29章 筋疾患						
第15週	第30章 感染性疾患 第31章 中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和8年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	整形外科学Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整形外科疾患の患者に対する治療経験14年	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 整形外科疾患の病態を理解できる。 2. 整形外科疾患の症状・理学所見・診断方法を理解できる。 3. 整形外科疾患の保存・手術治療を理解できる。 4. 整形外科疾患のリハビリテーション治療を理解できる。			評価方法			
授業概要	整形外科疾患の実際をテーマに各論を学ぶ。 各部位ごとに発生する疾患の原因、症状、検査、診断、治療、 リハビリテーションの実際を学ぶ。			期末試験 70% 単元試験 30% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科疾患ビジュアルブック	使用器材	配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	胸郭(鎖骨骨折、肋骨骨折、胸郭出口症候群など)						
第2週	頸椎・脊椎(変形性頸椎症、頸部脊椎症性脊髄症・神経根症、頸椎後縦靭帯骨化症など)						
第3週	胸椎・腰椎(胸椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症など)						
第4週	腰椎・脊柱変形(腰椎分離症・腰椎分離すべり症、特発性側弯症、先天性脊柱変形など)						
第5週	単元試験1						
第6週	肩関節および上腕(肩関節の骨折・脱臼、肩関節周囲炎、腱板断裂、上腕骨骨幹部の骨折など)						
第7週	肘関節および前腕(上腕骨遠位端骨折、肘関節部の骨折・脱臼、上腕骨外側/内側上顆炎など)						
第8週	手関節および手指(手関節部の骨折、手指の骨折・脱臼、手根管症候群など)						
第9週	単元試験2						
第10週	骨盤・股関節および大腿(骨盤骨折、特発性大腿骨頭壊死症、大腿骨近位部骨折など)						
第11週	膝関節および下腿(変形性膝関節症、靭帯損傷、半月板損傷、膝関節の骨折・脱臼など)						
第12週	足関節および足(先天性内反足、扁平足、外反母趾、足関節部の骨折・脱臼など)						
第13週	単元試験3						
第14週	定期試験対策						
第15週	特別講義: 整形外科に関する最新トピックス						
授業外 学習指示等	授業内容に記載の疾患について、第1学年開講の整形外科Ⅰの講義内容を復習して臨むこと。 対象疾患の病態と機能障害の因果関係を理解すること。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	画像読影	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	CT・MRI画像を診て理学療法治療に活かす経験11年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. レントゲン写真を見て読影ができる。 2. CT・MRI画像などの画像を見て、障害の程度を知る事ができる。			評価方法			
授業概要	解剖学・整形外科学・内科・外傷学・病理学等の基礎的知識に基づいて、画像読影に必要な知識の整理と理解を確認する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	基礎から学ぶ 脳画像の読み方	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	脳画像読影の基礎知識・第1章:脳の正常像(序章 P x ~)						
第2週	磁気共鳴血管画像(MRA)での中大脳動脈閉塞画像・後大脳動脈閉塞(P7~)						
第3週	脳梗塞(P9~)						
第4週	脳出血(P22~)						
第5週	第2章体幹:頸椎・肋骨(P38~)						
第6週	腰椎圧迫骨折(P49~)						
第7週	脊柱管狭窄症(P54~)						
第8週	第3章四肢:上肢正常像・肩甲骨骨折(P58~)						
第9週	上腕骨骨折(P67~)						
第10週	下肢正常像・恥骨骨折(P88~)						
第11週	変形性股関節症(P94~)						
第12週	前十字靭帯損傷(P101~)						
第13週	第4章胸部正常像・肺気腫(P112~)						
第14週	国家試験過去問の画像問題①						
第15週	国家試験過去問の画像問題②						
授業外 学習指示等	より多くの画像をみて、正常像・異常像の理解をしておく。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	薬理学の基礎	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	薬理臨床開発部で約15年勤務歴有り	担当者	有竹 浩介	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 薬物が作用する仕組みについて説明できる。 2 薬物の副作用について説明できる。 3 薬物が様々な疾患にどのように利用されているか説明できる。			評価方法			
授業概要	薬理学とは何か？について理解してもらい、どのような薬がどのような疾患に利用され、どのような作用と副作用を示すのかについて解説する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハベーシック薬理学・臨床薬理学	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	薬物による病気の治療、薬理学・臨床薬理学とは何か リハビリテーションに活かす薬理学・臨床薬理学						
第2週	薬による疾患治療の本質						
第3週	薬を理解するために必要な基礎知識 薬とその標的						
第4週	薬の概念と分類						
第5週	薬の作用はどのように発揮されるのか 薬物の標的、薬物の用量と作用の関係、薬物の副作用						
第6週	生体内での薬の動き						
第7週	薬の作用に影響する因子 ヒトによる薬物の効き方の違い						
第8週	薬の使い方						
第9週	感染・炎症の制御と薬物療法						
第10週	神経疾患の薬物療法						
第11週	精神疾患の薬物療法						
第12週	循環器疾患の薬物療法						
第13週	疼痛の制御と薬物療法						
第14週	注意すべき頻用される薬物						
第15週	PTOT国家試験過去問題・まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、その日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	臨床運動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にて歩行障害患者への訓練指導経験11年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 正常歩行について歩行周期を踏まえ説明できる。 2 歩行パラメータの計測ができる。 3 異常歩行について特徴を理解し説明ができる。			評価方法			
授業概要	歩行に関する知識を深め、歩行観察・分析ができるよう学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	観察による歩行分析	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション(配布資料)						
第2週	配布資料(正常歩行について①)						
第3週	配布資料(正常歩行について②)						
第4週	歩行周期と各相について・正常歩行周期の実技練習(P9～)						
第5週	実技テスト(正常歩行周期各相における実技と説明)						
第6週	歩行速度・歩行パラメーターの計測方法(P17～)						
第7週	パッセンジャーとロコモーターについて(P22～)						
第8週	ロッカーファンクションについて(P26～)						
第9週	正常歩行観察・正常歩行分析 ①						
第10週	正常歩行分析 ②						
第11週	異常歩行について(配布資料)						
第12週	異常歩行の観察・実技 ①						
第13週	異常歩行の観察・実技 ②						
第14週	国試対策(臨床運動学分野)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	整形外科領域で15年の経験あり	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 痛みの検査について理解し、実施できる。 2. 知覚検査について理解し、実施できる。 3. 深部腱反射・病的反射検査について理解し、実施できる。 4. バランス検査について理解し、実施できる。			評価方法			
授業概要	理学療法評価学にて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できるように学びます。			期末試験(筆記試験) 25% 実技試験(確認テスト) 25% (江島担当分と合わせて、100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価学第6版補訂版	使用器材	特になし				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	痛みの評価について①						
第2週	痛みの評価について②(実技、オリエンテーション含む)						
第3週	実技確認テスト						
第4週	知覚検査について①(知覚とは、知覚検査の手順と検査、知覚検査上の注意事項)						
第5週	知覚検査について②(知覚検査の実際⇒触覚、痛覚、温度覚、深部覚、複合感覚など)						
第6週	実技確認テスト						
第7週	深部腱反射について(反射とは、反射弓、反射の種類、相動性伸張反射)						
第8週	病的反射について(頭部・顔面、上肢、下肢)						
第9週	実技確認テスト						
第10週	バランスについて						
第11週	バランスについて②(Romberg's test , Mann's test , FRT , TUG , BBS)						
第12週	実技確認テスト						
第13週	症例検討会①(グループディスカッション、発表)						
第14週	症例検討会②(グループディスカッション、発表)						
第15週	本試験対策、まとめ						
授業外学習指示等	予習・復習をしっかりと行うこと。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設にて臨床経験7年	担当者	江島 智子	授業方法	講義・実習	単位数	1
到達目標	1. 神経系を理解し、障害をイメージすることができる 2. 神経系の疾患の評価を実施することができる 3. 認知症の評価を実施することができる			評価方法 (江島担当分:50点) 期末試験 70% 小テスト 30%			
授業概要	理学療法評価学にて学習した内容を踏まえ、理学療法において必要な評価項目を理解し、実施および記録できるように学びます。			(大久保先生担当分:50点)			
教科書等	理学療法評価学第6版補訂版	使用器材	教科書・検査器具・配布資料・パソコン・プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	第10章 筋トーン検査①(錐体路・錐体外路、筋トーンの異常を理解することができる)						
第2週	筋トーン検査②(被動性検査と懸振性検査を実施することができる)						
第3週	第18章 片麻痺機能検査①(回復過程・共同運動・連合反応を説明できる)						
第4週	片麻痺機能検査②(Brunnstrom test の概要を説明し、実施できる)						
第5週	片麻痺機能検査③(12段階片麻痺テストの概要を説明し、実施できる)						
第6週	片麻痺機能検査④(脳卒中機能評価法:SIAS の概要を説明し、実施できる)						
第7週	第19章 脳神経検査①(嗅神経・視神経)						
第8週	脳神経検査②(動眼・滑車・外転神経)						
第9週	脳神経検査③(三叉・顔面神経)／(内耳神経)						
第10週	脳神経検査④(舌咽・迷走神経)／(副・舌下神経)						
第11週	第20章 高次脳機能検査①(大脳の機能について説明できる)						
第12週	高次脳機能検査②(失認について説明し、検査を実施できる)						
第13週	高次脳機能検査③(失行・運動維持困難について説明し、検査を実施できる)						
第14週	高次脳機能検査④(失語・認知症について説明し、検査を実施できる)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業前に1年次の神経系の復習をしておきましょう。 実技の復習をしっかりと行い、実施できるように練習をしていきましょう。						

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	回復期病院で5年以上の実務経験あり	担当者	桑原 佑典	授業方法	講義・実技	単位数	1
到達目標	1. 徒手筋力検査の実施方法を理解できる。 2. 徒手筋力検査を実施し、評価できる。 3. 検査結果から、必要な治療プログラム等を立案できる。			評価方法			
授業概要	本授業では、理学療法評価の基礎となる徒手筋力テスト(Manual Muscle Testing: MMT)の理論と実技を学習する。各筋の解剖学的特徴と機能を理解した上で、検査肢位、固定、抵抗の加え方、判定基準などの基本原則を修得する。さらに実技演習を通して、臨床場面において再現性・信頼性の高い筋力評価を実施できる能力の基礎を養う。			定期試験(筆記試験) 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価学 第6版 病気がみえる 第2版 脳と神経	使用器材	検査器具一式				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	総論、徒手筋力検査の概論、徒手筋力検査法 下肢①						
第2週	徒手筋力検査法 下肢②						
第3週	徒手筋力検査法 下肢③						
第4週	徒手筋力検査法 下肢④						
第5週	徒手筋力検査法 下肢⑤						
第6週	徒手筋力検査法 上肢①						
第7週	徒手筋力検査法 上肢②						
第8週	徒手筋力検査法 上肢③						
第9週	徒手筋力検査法 上肢④						
第10週	徒手筋力検査法 上肢⑤						
第11週	徒手筋力検査法 頸部、体幹①						
第12週	徒手筋力検査法 頸部、体幹②						
第13週	徒手筋力検査法 手指、肩甲帯						
第14週	徒手筋力検査法 顔面、脳神経						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	実技演習が主体になります。積極的に行動し、実技習得に努めましょう。						

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	運動療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院での実務経験有り	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1、理学療法における運動療法の位置づけ、歴史的背景を説明できる。 2、運動療法の定義、目的、種類を説明できる。 3、関節可動域制限に対する理論と方法を説明できる。 4、筋力増強運動、持久力増強運動の理論と方法を説明できる。 5、協調性改善、神経筋再教育、運動学習の理論と方法を説明できる。			評価方法			
授業概要	解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、運動療法を行う上で特に必要な基本的知識の整理と理解を再確認する。つぎに、関節可動域訓練、筋力増強訓練、持久力訓練、全身調整訓練、リラクゼーション協調運動訓練等、運動療法の基本的療法概念を学習する。			期末試験60% 小テスト40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法テキストⅢ 運動療法Ⅰ	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	運動療法の概念(歴史、定義、理学療法のなかでの位置付け)						
第2週	運動療法の基礎1(結合組織・関節の構造と機能)						
第3週	運動療法の基礎2(筋・神経系の構造と機能)						
第4週	基本的運動(力源の違いによる分類、筋収縮の状態の違いによる分類)						
第5週	小テスト1(前回までの内容)、関節可動域運動(目的、種類)						
第6週	関節可動域運動1(関節可動域制限)						
第7週	関節可動域運動2(維持目的の方法と実際)						
第8週	関節可動域運動3(改善目的の方法と実際)						
第9週	筋力維持増強運動1(目的と適応、筋力とは、筋力維持増強に必要な基礎知識)						
第10週	筋力維持増強運動2(筋力増強運動の理論と実際)						
第11週	持久力増強運動(持久力とは、筋持久力、全身持久力、持久力増強の理論)						
第12週	小テスト2(第6週～11週の内容)、全身調整運動						
第13週	神経筋再教育と協調性の改善(運動の協調性とは、協調運動障害とは、改善の理論)						
第14週	運動学習						
第15週	国家試験問題の解説						
授業外学習指示等	解剖学、生理学を整理しながら学習しましょう。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	日常生活活動学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にてADL訓練指導11年有する	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. ADLについて理解し、バーセルインデックスやFIMを使ってADLの評価ができる。 2. 黄本の動作について学び、動作観察や動作分析が説明できる。			評価方法			
授業概要	日常生活活動(ADL)に関する知識を深める。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学テキスト	使用器材	配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	総論:ADLの概念(P1~)						
第2週	ADL評価とその実際①ADL評価の概要と評価法(P21~)						
第3週	ADL評価とその実際②動作分析の視点(P37~)						
第4週	ADL評価とその実際③バーセルインデックスBI(P45~)						
第5週	ADL評価の練習(バーセルインデックス使用)						
第6週	ADL評価とその実際④機能的自立度評価法FIM(P55~)						
第7週	ADL評価の練習(FIM使用)						
第8週	国家試験過去問(BI・FIM)						
第9週	補装具について(P71~)						
第10週	杖・松葉杖の調整法について(P74~)						
第11週	杖・松葉杖の調整の実技練習						
第12週	車椅子の種類と構造(P78~)						
第13週	車椅子の採寸(P82~)						
第14週	国家試験過去問(ADL分野、実地問題含む)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	義肢装具学	授業時期	前期	授業時数	60
実務経験	病院で義肢装具のチェックアウト等の経験有り	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 臨床で用いる義肢装具の基本的知識を増やすことができる。 2. 臨床で使用される義肢装具の種類、特徴、機能が説明できる。 3. 義肢装具の使用方法を理解し、実際に装着することができる。			評価方法			
授業概要	義肢装具に関する基本的事項を学習し、義肢装具の特性と構造を紹介する。国家試験の過去問を授業に取り入れ、理解を深める。			期末試験 60% 単元試験 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト義肢装具学	使用器材	配布資料、四肢の義足と装具、体幹装具、自助具 四肢の断端モデル、切断部包帯シミュレータ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週 (2コマ)	オリエンテーション 装具学総論(装具および装具療法とは、対象疾患、装具の目的、装具の機能など)						
第2週 (2コマ)	下肢装具の部品とその機能(支柱、半月とカフベルト、ロック、継手、足部など) 短下肢装具(短下肢装具の目的と対象となる障害、主な短下肢装具の種類など)						
第3週 (2コマ)	長下肢装具・股装具・膝装具(長下肢装具の目的と対象疾患、長下肢装具の種類など) 靴型装具(靴型装具の目的、靴型装具の適応となる疾患など)						
第4週 (2コマ)	下肢装具のチェックアウト(下肢関節の解剖学的特徴と装具継手、運動軸と継手軸など) 下肢装具のチェックアウト実習(装具歩行の体験、装具装着体験)						
第5週 (2コマ)	単元試験1 体幹装具・側彎症装具(体幹装具の目的や適応疾患、装具による側弯の矯正力など)						
第6週 (2コマ)	上肢装具と自助具(上肢装具とスプリント、上肢装具の目的・原則・分類など) 脳卒中片麻痺の装具(脳卒中片麻痺の治療における装具の意義や使用目的など)						
第7週 (2コマ)	整形外科疾患の装具(骨折用治療用装具、免荷装具など) 関節リウマチ・対麻痺・小児の装具(関節リウマチに対する装具、対麻痺の装具など)						
第8週 (2コマ)	単元試験2 切断と義肢の基礎知識(切断の疫学、義肢の種類、切断後リハビリテーションの流れなど)						
第9週 (2コマ)	早期義肢装着法と義足適合の流れ(早期義肢装着法とアライメントの概念など) 大腿切断・膝離断の基本と義足構造(大腿切断の断端と大腿義足の特徴、ソケットなど)						
第10週 (2コマ)	大腿切断・膝義足のアライメント(ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントなど) 股離断・片側骨盤切断・足部切断(股義足の適応と特徴、カナダ式股義足アライメントなど)						
第11週 (2コマ)	単元試験3 下腿切断・サイム切断の義足構造(サイム切断の特徴、サイム義足のソケットなど)						
第12週 (2コマ)	下腿切断・サイム切断のアライメント(ベンチ・スタティック・ダイナミックアライメントなど) 下肢切断の評価(下肢切断の評価項目、切断肢以外の評価の重要性など)						
第13週 (2コマ)	下肢切断の義足装着前理学療法(立位バランスと歩行練習など) 義足装着理学療法と応用動作(アライメントチェックアウトと義足装着理学療法など)						
第14週 (2コマ)	単元試験4 先端技術を応用したリハビリテーション医療						
第15週 (2コマ)	特別講演:先端技術を応用した義肢装具						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	物理療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	各種物理療法・各治療器の使用経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	臨床で扱う物理療法機器の原理、効果を学ぶ。 疾患別に適応と禁忌を学ぶ。 治療器ごとの特徴と特性を学ぶ。			評価方法			
授業概要	物理の理論を理解して、各物理的な療法、各治療器の使用法、注意点、適応などを学ぶ。			期末試験 60% 中間試験 40 % (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト 物理療法	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	物理学の復習						
第2週	温熱療法 ① ホットパック						
第3週	温熱療法 ② パラフィン						
第4週	温熱療法 ③ 超短波、極超短波、超音波						
第5週	小テスト1 授業アンケート						
第6週	寒冷療法 ① アイスマッサージ						
第7週	寒冷療法 ② 極低温療法						
第8週	光線療法 紫外線、赤外線、レーザー						
第9週	水治療法 ① 過流浴、気泡浴						
第10週	水治療法 ① ハバードタンク						
第11週	小テスト2 授業アンケート						
第12週	電気療法 ① 低周波						
第13週	電気療法 ① 干渉波						
第14週	牽引療法 頸椎、腰椎						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。授業中に全ての範囲を網羅することは困難ですので、復習をかねて授業を行った範囲については教科書を読むようにして下さい。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	筋骨格障害系理学療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院施設勤務25年	担当者	高松 敬三	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。 2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。 3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。 4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。			評価方法			
授業概要	筋骨格系に関する疾患別理学療法について、評価、問題点抽出、目標設定、プログラム作成及び運動療法、注意点等について学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	15レクチャーシリーズPTテキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	組織再生・修復(組織の基本的な修復過程、各組織の再生・修復過程、治療理論)						
第2週	骨折と脱臼(骨折の病態・治癒過程・症状・合併症・診断、脱臼の分類・治療)						
第3週	骨折と脱臼 高齢者の四大骨折(橈骨遠位端骨折、大腿骨近位部骨折)						
第4週	変形性股・膝関節症(変形性股関節と変形性膝関節症の病態と治療)						
第5週	人工股・膝関節置換術(人工股・膝関節全置換術、術所見読解、人工関節術後の合併症)						
第6週	関節リウマチ(関節リウマチと類似疾患の病態、診断基準、関節破壊、関節変形、治療)						
第7週	末梢神経損傷(末梢神経損傷の病態・原因・臨床症状・治療・理学療法)						
第8週	頸部疾患(代表的な頸部疾患、頸部疾患における理学療法)						
第9週	腰部疾患(代表的な腰部疾患、腰部疾患における理学療法)						
第10週	脊椎手術(脊椎の手術と理学療法、手術を理解するための基礎知識)						
第11週	肩関節周囲炎(肩関節周囲炎と類似疾患、整形外科的治療、評価、理学療法)						
第12週	肩の外傷(腱板断裂、外傷性肩関節脱臼、関節唇損傷)						
第13週	膝靭帯損傷と半月板損傷(前十字靭帯損傷、内側側副靭帯損傷、半月板損傷)						
第14週	捻挫と肉離れ(靭帯損傷、足関節の捻挫、アキレス腱損傷、ハムストリングスの肉離れ)						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	中枢神経障害系理学療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験39年	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	中枢神経障害疾患群の病態を理解したうえで、理学療法評価の実施、治療プログラム立案及び実施を行えるようになることを目標とする。			評価方法			
授業概要	中枢神経障害疾患群の病態の理解とこれに対する理学療法の基本事項を理解させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	中枢神経障害系理学療法学テキスト	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	中枢神経の全容						
第2週	中枢神経の全容						
第3週	片麻痺の原因						
第4週	片麻痺の原因						
第5週	脳血管障害の診断 急性期治療						
第6週	脳血管障害の診断 急性期治療						
第7週	片麻痺の評価①						
第8週	片麻痺の評価①						
第9週	片麻痺の評価②						
第10週	片麻痺の評価②						
第11週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ①						
第12週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第13週	重症片麻痺例に対する回復期理学療法 ②						
第14週	演習①						
第15週	演習②						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	内部障害系理学療法学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	呼吸器・循環器疾患患者への理学療法経験11年	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	病態に応じた理学療法プログラム評価実施することができる。 病態に応じた理学療法プログラムを立案することができる。 呼吸介助手技や運動指導を実施できる。			評価方法	期末試験 100%		
授業概要	呼吸器系疾患とがんのリハビリについて学ぶ。			(100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	最新 理学療法講座 内部障害理学療法学	使用器材	聴診器・吸引シミュレーターQちゃん				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	呼吸器の構造(P14～)						
第2週	呼吸機能評価の意義と方法(P19～)						
第3週	呼吸困難感の評価(P25～)						
第4週	フィジカルアセスメント(視診・触診・聴診・打診)・実技練習(P27～)						
第5週	呼吸機能検査(P35～)						
第6週	慢性閉塞性肺疾患(COPD)(P46～)						
第7週	COPD患者の呼吸理学療法実技練習						
第8週	肺水腫・間質性肺炎・睡眠時無呼吸症候群(P62～)						
第9週	排痰法・ハフティング・胸郭可動域練習・徒手的呼吸介助手技①(P79～)						
第10週	排痰法・胸郭可動域練習・徒手的呼吸介助手技②(P89～)						
第11週	排痰法・胸郭可動域練習・徒手的呼吸介助手技の実技練習						
第12週	人工呼吸管理と理学療法(P92～)						
第13週	気道内分泌物吸引法及び実技(P99～)						
第14週	がんのリハビリテーション ①(P286～)						
第15週	がんのリハビリテーション ②(P304～)						
授業外 学習指示等	この授業は、解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせてこれらの科目を十分復習をしてから講義に臨むこと。						

令和8年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	地域リハビリテーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	介護老人保健施設、訪問リハの経験有り	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 介護保険の仕組みについて説明できる。 2. 地域リハビリテーションにおいて、理学療法士の役割や仕事について説明ができる。			評価方法			
授業概要	1 地域リハビリテーションとは何かを理解し、介護保険制度の知識を深める。 2 地域リハビリテーションに関する様々な制度を理解する。 3 高齢者の特徴を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	地域リハビリテーション学テキスト	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	地域リハビリテーション学総論						
第2週	地域リハビリテーションの考え方						
第3週	介護保険制度下のリハビリテーション						
第4週	介護保険サービス概論						
第5週	地域包括ケアシステムの中での理学療法士の役割						
第6週	地域支援事業の中での理学療法士の役割						
第7週	介護保険サービス下での理学療法士の役割						
第8週	介護老人福祉施設での理学療法士の役割						
第9週	介護老人保健施設での理学療法士の役割						
第10週	訪問リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第11週	通所リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第12週	通所介護での理学療法士の役割						
第13週	理学療法士が考える施設における体操・レクリエーションについて						
第14週	国試対策(地域リハビリテーション分野)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						